

会 議 記 録

会議の名称	第1回 平泉町観光審議会
開催日時	令和5年2月6日(月) 14:00~16:00
開催場所	平泉町役場2階 庁議室
構成員	出席者:(別紙名簿) 事務局:観光商工課 受託者:ランドブレイン(株) (以下LB)
会議内容	1 開会 2 委嘱状交付 (会長:千葉(力)委員、副会長:高橋委員の指名) 3 挨拶(町長) 4 協議 (1)平泉町観光振興計画(案)について (2)その他 閉会
質疑の概要	
(1)	平泉町観光振興計画(案)について【資料1、2、3】
高橋委員	・資料1~3の一括説明等 この数年の新型コロナウイルス感染症の影響として観光客の減少というのは理解するが、時期ごと(月単位)による増減まで確認できないのか。
事務局 (LB)	資料3、13~14ページに観光客入込数と宿泊客数の月別値をグラフ化している。ただ調査地点や大規模イベント等の有無の関係で影響を受けやすい値であり、このグラフだけで町内観光客数のピークがどこかといったところは特定できないだろう。なお今回、別途観光関係事業者等を対象にしたヒアリングも実施しているが、平泉・一関DMOに伺ったところ、一関市も含めた広域圏でみると、春先~秋までがオンシーズンで、冬場がオフシーズンであるとの認識で、冬場の底上げで観光客数の平準化を図っていきたいということだった。
商工観光 課長	やはり「藤原まつり」の影響が顕著だということはあるだろう。また令和に入ってから全体的な客数の減少というの、新型コロナの影響ということになるだろう。今後、本計画としても通年的な客数確保に向けて取り組んでいく必要がある。
内藤委員	資料3、22~23ページに掲載の来訪者アンケート結果に関して、もっと平泉町内での宿泊があれば、連動して滞在時間も増えていくだろうと思う。 資料1、町民対象アンケートのほうは自分も回答したところだったが、後半の設問が難しく回答するのが大変だった。観光の関係者でもなければ、他の方もかなり答えづらかったのではないかな。
事務局 (LB)	参考までに資料2の8ページ、Q7として、平泉町への旅行の際に宿泊した施設というのを伺っており、集計結果としては、仙台、松島の旅館やホテルといったところが、現状は最も多くなっている。 町民アンケートの設問設定の関係は、今後、同様な調査を実施する際の参考とさせていただきます。
会長	宿泊客の県内・県外比というのは如何だろうか。
鈴木委員	現状は半々というところだろう。関東を含めた東日本全般あるいは東北6県がシェ

	アとしては高いと思う。
会長	道の駅の方は如何だろうか。
千葉 (志) 委員	数字は無いが凡そは関東圏が多いだろう。観光で道の駅に来るとするのはその5割ほどで、残るは4号線の通過車両であり、観光にだけ特化はしていない状況。 かつて道の駅協議会が発行していた道の駅マップについて、最近配布を終了したのだが、要望はまだある(60~70歳代の利用客)ので、引き続き「紙」パンフレット等の提供も必要だろう。 資料3、29ページ(3)基本目標指標の中に宿泊客数の設定があるが、そもそも平泉町のキャパシティが分からなかったので確認したい。 資料2、7ページにあるQ6の設問に、現在改修中だが衣川荘(奥州市)が入っていたが、平泉観光とは関係が深いところだと思う。もう少し平泉観光圏のようなものを再確認してもいいのではないか。
観光商工課長	観光DX推進のこともあるが、情報発信媒体については、町としても双方必要であると認識している。 宿泊者数の関係は、町内には9施設あるが客数については今確認する。 一関市あるいは奥州市とは現状でも種々連携をとってきているが、宿泊施設の紹介のあり方等、再考の余地もあるだろう。
小室委員	資料3の28ページ、第2章、1の(1)5段落目の文中に、「・・・担い手の減少が課題となっている本町において、観光客が町民と交流する機会を充実させることで・・・」とあるが、交流の具体的な内容というのは何なのか。
観光商工課長	国としても、以前から首都圏から地方への移住促進政策を掲げているところで、例えば農家民泊等の体験だとか、宿泊先で「おもてなし」を受けて、そこから平泉町のファンとなってもらい、さらに町への移住・定住を促していくようなことを想定している。
小室委員 会長	少人数の受け入れということであれば農家民泊のほうは協力体制もとれると思う。 以前の商工会長の話で、12区のほうで新規開店のお店があったときに通行人に飲み物をふるまっていたそうだが、あるいは普通の大工さんだったり、農家のおじいさんと観光客が会話するとかいう場面づくりを、今後の「事業」として考えていくことも必要だろう。
高橋委員	平泉町の中学校では農業体験のようなことは行っていないのか。
吉野委員	平泉中であれば、自宅が農家だったりするので、その目的で外へ出かけることはないと思う。
会長	職場体験という形では実施しているのではないか。
観光商工課長	宿泊客の収容人数について、都合9施設で404人であった。先ほど委員からご指摘もあったように全体の観光客数に対して少ないことになるが、実際、平泉町への宿泊ニーズについては、今回の調査結果なども参照しつつ、さらに分析していく必要がある。
千葉 (志) 委員	平泉町内に泊まっていただくことが一番だろうが、既に平泉町民だけで平泉観光を担っているのでもないのだから、町内に足りない要素(機能)は周辺都市に任せて、一緒にやっていくというスタンスもあるのではないか。
町長	この度、町の長島地区をはじめ、東稲山麓地域が日本農業遺産に認定されたが、これを機に、新たに宿泊施設の誘致(星野リゾート等)でも検討したらどうか。 チャレンジから3回目、農業遺産認定に至るまで6年間を要したが、中尊寺・毛越寺

建立から900年を経て培われたきた、人々、地域の関わりといったものが評価されたことになっている。今後さらに世界遺産登録に向けて、平泉町、一関市、奥州市、岩手県がさらに強固にスクラムを組んで、ひとつひとつステップを塗りつぶしていくことになる。

平泉の世界遺産（仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群）、金の日本遺産、照井堰の灌漑遺産、そして今回の日本農業遺産と、4つも揃うのはわが国で平泉町だけのものであり、これから新たな地域の価値観を発信できる取組、あるいは教育旅行の更なる展開などもあるだろう。

菅原委員

資料3、計画書案の冒頭にもあるように、今後の観光DXの推進といった、デジタル技術の導入と情報の収集・発信というのは重要なところとなるだろう。一方、中尊寺内を歩いている方々を見ていると、スマートフォンを見ながら、というのはあまり見かけない。その場でしか味わえない景色や地域の人々の交流という、観光本来の魅力を維持していく部分も引き続き必要であり、双方の取組を適材適所にバランスさせていくところが大事になっていくだろう。

観光振興計画の性格として、こうした取組内容を網羅的に示す必要があることは理解している。記載のことはその通りだと思う。さらには今後、平泉町としてどこに重点あるいは優先度を置くのか、推進スケジュールといったものも示す必要があるだろう。

観光商工課長

ご意見の通り、SNSへの対応は注力していくところであるし、既存の紙媒体（ポスター）のほうがより資源（金色堂内陣、毛越寺庭園等）の魅力が伝わりやすい場合もあるだろう。

今回、観光振興計画案として必要な要素は考えられるだけ掲載したところで、今後、アンケート結果等の分析・咀嚼、策定委員会・本審議会からのご意見を踏まえ、計画案への反映等を進め、観光振興計画にメリハリをつけていく。

(2) その他

事務局

・今後のスケジュールについて（次回3月中旬想定）、意見照会依頼

以上